



同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

同窓会の叡智で母校の 存続を果たそう

昭和三十一年度卒(第八回)
同窓会長

佐藤 祐一



澁らつと磨け深き叡智：

沿革史によれば昭23年4月1日、山形県立小国高等学校設置認可(定時制高校として発足) 小国小学校仮校舎で開校式及び入学式挙行。昭28年4月1日通常課程普通科(50名)募集認可、木造新校舎完成、体育館工事着手、校歌制定等名実共に母校開校の年に私は定時制農業科に入学できた。

恩師の薫陶を受けた読書に没頭したり、良き友が沢山できたり、その後の人生に希望のもてる生き方をみつけることができた。

卒業記念に長沼源吉校長よりいただいた改良種の大

山桜が来年50年を迎えます。校長先生の名をいただき「源吉桜」と命名しました。みごとな色合いにひかれ見知らぬ人々が訪れます。

町内外の同窓生の皆様には激しい変改の時代にご奮闘の日々をお過ごしのことと存じます。

昨年5月、母校発展に多大な貢献をなされた仁科会長の後任として役にあたっております。ご指導願います。

県の第5次教育振興計画(H17〜27年度)の県民説明会が長井会場(7月3日)と小国高校の将来を考える集い(10月28日)が行われ、県教委の説明と質疑があり、「魅力ある小国高校」について勝見校長より発表がありました。高校再編については交通事情など地域の実情に配慮するとしながらも数の論理も見えかくれします。57年間生徒・教師・地域で築き上げた教育の殿堂を同窓生の叡智で守り抜くうではありませんか。

あいさつ



校長 勝見 英一朗

「白い森おぐに」の四季も、純白の雪景色で一年の彩を終えようとしております。季節の移り変わりを、これほどまでに美しく見せてくれるのは、雪国だからこそと、いつも感じます。このような、いかにも日本らしい風情の中で、しかも人情味あふれる地域の方々のご支援のもと、日々充実した教育活動ができますこと、とても有難く思います。特に、本校同窓会には、米国ベニス高校への短期留学の財政的支援を快く約束して頂くなど、多くのご支援を頂戴いたしました。同窓会は本校のよき理解者であり、大変心強い存在であります。

今年度は、県立高等学校の再編整備計画に関わって、同窓会をはじめとして格段のご尽力を賜りました。

本校では「魅力ある小国高校づくり」こそ最大かつ急務の課題ととらえ、後述のように様々な取り組みを進めているところです。同窓会の皆様のご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

今年度の取り組みと課題

まず、今年度の取り組みですが、詳しくは語れませんが、

- (1) 個別指導体制の充実
 - (2) 一貫教育の充実
 - (3) 本校のPR活動
- について概略をお話いたします。

(1)は、小規模校である本校の生命線ともいえる部分



大妻女子大学服部孝彦教授によるモデル授業

で、「二人一人を大切に」個別指導を、いっそう充実させようというものです。平日講習や進学希望者の添削指導、面接指導、補充・再テスト等、授業以外にも懇切な指導を行っております。今年度の第3学年の進学・就職実績はすばらしいものでしたが、これも、その成果と言えます。

(2)では、小国町の教育の根幹である「小中高一貫教育」の充実のために、高等学校として何をすればいいのか、という観点で諸事業を推進するとともに、新たな取り組みも始めておりま

す。例えば、

- ① 来年度の、米国ベニス高校への短期留学（第3学年時2名2週間）の具体化。
- ② 第1学年の福島県ブリティッシュヒルズ（イギリスの文化をそのまま持ち込んだ所）での宿泊研修の実施。
- ③ スクールカウンセリングの導入（スクールカウンセラー来校、今年度は6回）。
- ④ 連携型入学選抜の改善。
- ⑤ 学校設定科目の見直し、などです。

(3)では、中学校訪問や広報紙「小国高ジャーナル」の発行、学校紹介プロモーションCDの作成と配布などを行ってきました。ボランティアや修学旅行など生徒の活動が町広報やメディアに取り上げられたことも良いPRとなりました。それでも、一般の方からの、本校についての理解は十分とは言えませんので、機会をとらえて生徒・教職員の活動の様子をお知らせしたいと考えております。本校の課題は、前述した

施策の改善といっそうの推進ということになりますが、加えて、「生徒に自信を持たせる」「自己の可能性に気づかせる」ことをあげたいと思います。一年間本校の生徒を見てきて、学校行事や勉強など、期待以上の活躍・がんばりでした。大きな可能性を感じます。しかし多くの生徒は、その可能性を自覚していないのではないかと思います。生徒の能力を引き出し開花するために全教職員が力を合わせていきたいと思っています。同窓会の方々のいっそうのご支援をお願いいたします。



小国学による黒沢峠での学習

一貫教育の小国高校で学んだ三年間

渡部 淳



私は小国高校で学習でき
て良かったことが四つあり
ます。

一つ目は、人数の少ない
学校なので先生方が生徒一
人一人に目を配って下さる
ところ。授業の時には
気軽に私達に声をかけて下
さり親しみを感じて学習す
ることができました。

二つ目は一年生の時に
行った小国学です。普段の生
活で気付かない行事や問題
を知ることができ、そして
真剣に小国町の問題につい
て考えるようになりました。
三つ目に二年生の時の修
学旅行があげられます。目
的地がアメリカということ

で、異文化を学んだり、現
地の人々と会話をしたりす
るなどとても貴重な体験を
することができました。ま
た短い間でしたが日本を離
れてみることで日本のすば
らしさをあらためて実感す
ることができました。

そして最後に三年生での
受験勉強では最初に書いた
通り先生方の所へ気軽に
行き解らない所を丁寧に教
えてもらい、面接練習にも快
く応じてもらいました。

私は小国高校で学習でき



それぞれの希望を胸に入学

たことを誇りに思い、進路
先での学習にも励んでいき
ます。

岸 雅子



私はこの冬、県立米沢女

子短期大学に合格しました。
高校入学当初の私は将来何
になりたいかなどまったく
と言っていないほど決めてい
ませんでした。学校の授業
も、こんなこととして本当に
将来の役に立つのかとずつ
と思っていました。

しかし、三年生になり、
学校の授業はとても大切な
ことだと知りました。まず
推薦入試を受けるためには
評定平均があり、それをク
リアしなければ受験できま
せん。また、合格が決まれ
ば、入学まで色々学ぶこと
や、高校で学んだことの復
習が必要になります。です

から、学校の授業に一生懸
命取り組むことはとても大
切なことなのです。特に二
年生は頑張ってください。

私は将来、栄養士として
病院で働きたいと思ってい
ます。そのためにも、入学
までの期間や入学してから
大変なこともたくさんある
と思いますが、栄養士にな
りたいという強い気持ちを
持つて何事も前向きに取り
組んでいきたいと思っています。
最後に、先生方今までご
指導ありがとうございました。
心から感謝しています。

嶋 貫 由 寿



小国高校で、三年間いろ
んなことを学んできました。
学習面はもちろん、人間的
にもいろいろなることを学ん
だと思っています。

私は、高校生活で最も部

活動に力を入れてきました。
私はバスケットボール部に
所属していました。バスケ
ットボール部は、私が一年
生の時にできた部で、部員
がなかなか集まりませんで
した。私は中学の時からバ
スケットボールに熱中して
いたので、すぐ部に入りま
した。私は部に入る前まで、
ごく普通で何もない生活を
送っていました。勉強も、
赤点を取らない程度にして
いました。しかし、バスケ
ットボール部に入ってから、
生活面や、勉強面で変化が
ありました。生活面では、
人の話を以前よりちゃんと
聞くようになり、勉強面
では、中途半端さがなくな
りました。

好きなことをしているだ
けで、こんなに人は、変わ
れるものかと、今は驚いて
います。バスケットが私を
変えてくれました。バスケ
ットボールができて本当に
よかったと思います。部を
作ってくれた先生方に、と
ても感謝しています。

砥石 亜理沙



私は部活動を通して、たくさんのお話を学びました。殆ど休まず部活に行き、仲間と共に一つの目標に向かって毎日遅くまで頑張ってきました。そんな練習をしていく中で、仲間の大切さや、試合を通して、諦めず最後まで粘ることの大切さを学びました。また、常に前向きな気持ちを忘れず、負けそうになっても勝てると信じプレーすることで、強い精神力を培ってきました。

また、小国高校では「国際理解」の学習に力を入れてきました。英会話を学習し、アメリカのロサンゼルスへ修学旅行に行きました。ベニス高校の人達と会話をしたりして、本場の英語に触れることができました。

また、初めて外国へ行き、日本との習慣や文化の違いなどを目の当たりにして、素晴らしい体験をすることができました。

これから私が生きていく上で、これらの体験を活かして行きたいと思っています。親身になって指導して下さった先生方や高校生活を共に過ごしてきた仲間達に感謝しながら、夢に向かって一歩一歩進んでいきたいと思っています。

高橋 進平



高校生活を振り返って、最も充実した時間を過ごしたのは部活動である。この部活動を通していろいろなことを学んだ。

一つは、物事を最後までなしとげることの大切さである。私の所属していた部

活動は野球部だった。毎日のダッシュの途中で何度か休んでしまおうと思ったことがあった。しかしここで休んだら何も残らないのではないかと思い走り続けた。今になって考えてみると、くじけずにやり通して本当によかったと思っている。

二つ目に学んだのはチームワークの大切さである。部員たちが協力して一つの目標に向かい練習すること、試合や練習でミスしても声をかけ合うなど、あたり前のことではあるがとても重要なことだと思う。

この三年間の部活動から、助け合いの精神や、何事にも全力を尽くすなど本当にたくさんのことを学んだ。

これらのことを生かし、社会に出てからも日々成長していきたいと思っている。



渡部 祐樹



私は私立大正大学文学部表現文化学科に入学が内定しています。

数理科コースを選択し、大学進学を目指して学習してきました。しかし一、二

年生の時は、明確な志望校がなく、必ずしもしっかりとした学習ができていませんでした。それでも総合学習などで先生方のアドバイスをを受け、三年生の早い時期に大正大学を知り、志望校を決めることができました。また早く志望校を決めたことで、AO入試を受験することができました。

AO入試とは学科試験がなく面接や小論文、大学の出す課題などで合否が決まるものです。AO入試は推薦入試よりも早い時期に始まるので、先生方には夏期

休業中から受験のための準備をしていた。課題や小論文の添削も継続していた。私には面接をした経験がなく不安を感じていましたが、先に合格していた友人に手伝ってもらい万全の準備で受験に臨むことができました。

私が合格できたのは先生方や友人の協力があったからこそだと思っています。



それぞれの進路に向かい旅立つ

恩師回想

回想



白田孝造 先生

(昭和三十三年～四十二年)

今年の年賀状で驚いた事があった。中に何と四十年かぶりの小国高の、教え

子のものがあつたのである。懐かしかった。その遙かな

歳月が流れている事を知り、感無量であつた。その小国である。いっぱいの出会いがあり、そしていっぱいの別れがあつた。

赴任した当時、既に亡くなられた安部事務長の言われた言葉が、今でも印象に

残っている。「小国は確かに雪国で、春は遅いが、春になると、皆一斉に花が咲くんですよ。春を待ちかねたように。」

その春夏秋冬、十年余を過ごした懐旧の、山と川のある町だつた。

昭和三十八年、豪雪、同三十九年、学校火災、新潟地震、同四十一年、羽越水害、それらは、その年代を生徒と共に生き、共に味わつた、人生の哀歌でもあつた。

離任後、三十周年記念、五十周年記念にも、案内を

頂き、その度、伺う毎に、町も学校も、面目を一新していた景観は、感動的でもあつた。

その私の小国の歳時記。

それはそのまま望郷の思いにも似ている。

中でも、三十九年は多彩な年だつた。四月の学校火災、九月の新潟地震、そしてその年の東京オリンピック。聖火リレーが生徒も参加して小国街道を走つた。

そして美しい自然の風物詩。春、校舎の造林作業の時、終つて斜面を降りる際、

ふと、一面のカタクリの、可憐な花々。愛惜のそれ。

冬、スキー大会終了後、すっかり夜となり、遠景の山の黒いシルエツト、麓の人家の灯、白い雪道、見上げる空に満天の星、そのま

まメルヘンの世界だつた。これは三十八年頃の事か。

デビュー当時の歌手、舟木一夫の公演が旧体育館であつた。歌は流れたものである。

「ぼくら、離れ離れになろうとも、クラス仲間はいつまでも」

「踏み台」として生きる決意



渡辺 熙子 先生

(昭和四十一年～五十二年)

伊佐領の岩肌をむき出した巨大な山が目に入るところまで来ると、小国町に着いたなという懐かしい気持ちになります。

美しい春の芽吹き、むせかえる程の青葉の香り、全山を燃えるような紅葉で飾

り、やがて木枯しが吹き、降り積もる雪が町全体を静寂の白い森に変える。私が十年九ヶ月の間に慣れ親しんだ美しくも厳しい小国町の四季です。

私が赴任した頃の小国町は日本重化学や東芝セラミックス等の好景気に支えられて、活気に満ちていまし

た。会社の近くには社宅があり、二千人の従業員が働いていると聞いていました。社宅に住む生徒達は「社宅の子」などと言われて、少しばかり都会風でした。

小国高校で学ぶ生徒は、

小国町立の各中学校出身者が中心でしたが、長井市や飯豊町や新潟県からの通学生もいました。興学寮とい

う寄宿舎がありました。マイカーなど殆ど無い時代に通学すること自体とても大変だつたろうと思います。

欠席や遅刻が多くて困つたという生徒もいなかったし、保健室通いなどと言う生徒もいなかったと思います。健康で明るく素直で、優秀な生徒が多かったです。

英語を教えた私にとって

一番うれしかったことは五十一年度卒業の生徒たちが「シーザー」を授業の中で演じてくれたことです。三

クラスあつた普通科の生徒全員が、セリフの長短はあつたにせよ、一生懸命に英語のセリフを覚えて、見事に演じてくれました。ブル

ータスのセリフは特に多く、よく暗唱したと内心びつくりでした、生徒との触れ合いを通し、私の中に生徒の踏み台になろうという決意が固まってきました。私を踏み台にして大きく社会に羽ばたけ！

あの生徒たちは今や町の発展の為に、重要な役割を担って活躍しています。

豪雪に耐え、羽越水害を乗り越えて、美しい山河を守ってきた町民の為に、小国高校が永遠に存続し、発展することを祈っています。

同級会紹介コーナー

林業科第一期生の 還暦同級会開催

藤田 栄三

(昭和三十五年度卒)

平成十五年四月二十六日
二十七日鶴岡市湯野浜温泉に於いて林業科第一期卒業生の同級会を開催しました。昭和三十六年三月卒業のクラスで、卒業してから四十二年が経過し還暦を迎えました。そして定年退職をした大きな節目に当たることから、三年間担任の恩師渡辺太兵衛先生ご夫妻にもご臨席をいただいて盛大な宴となりました。善宝寺にて還暦のお祓いをして第二の人生に備えました。北は札幌から南は名古屋まで、卒業生三十五名中十五名の参加でした。今回は第八回目の同級会でしたが、次回は、二、三年後東京で開催することになりました。



同級会

小池 忍

(昭和三十四年度卒)

第十一回卒業(普通科)の同級会は「母校の訪問を全員で」を企画し昨年の九月十八日、十九日に開催しました。木造の校舎に隙間風、そして、冬は木炭の火鉢を囲み、身を寄せ合いながら共に学んだ日々を思い起こし、学校を訪問をしました。

当日は休日にもかかわらず、手塚教頭先生が私たちを正面玄関に笑顔で迎えてくださり、部活動をしている生徒たちを激励する事も出来ました。また、現在の母校の概要、現況、小中高一貫教育推進校の取り組み状況、私たちが一番心配している母校の将来についても具体的かつ詳細に説明を頂きました。

日々躍進する母校の姿に一同熱いものを感じ、大変有意義な時を過ごさせていだいだいた事に紙面をお借りし、手塚教頭先生はじめ、学校関係職員に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

私たちは、母校訪問終了後朝日連峰に抱かれ初秋漂う五味沢の地「白い森交流センター」に場を移し、卒業以来四十数年ぶりに会う友、還暦を越え喜怒哀楽や波乱に満ちた人生を歩んで来た友、青春時代の面影を今も

とどめている友、互に自己紹介しないと思ひ出せない友。同級生の良いところはここから。宴が盛り上がるにつれ一同が解け合い、恩師の今野先生を囲み、川のせせらぎを着に明日からの人生を大いに語りあかし、再開を約しそれぞれの生活に戻りました。母校があり共に学んだ友が居る。母校と友に感謝をし筆を収めます。

還暦を越えて訪ねる学舎に今なつかしく若き日偲う。

古里の川のせせらぎ着にし明かす一夜はことばつきせぬ
(須藤源一氏の短歌)

四十八年ぶりの 同級会

渡部 豊夫

(昭和三十一年度卒)

小国高校を卒業し、四十八年目の平成十六年十一月六日七日の両日、初めての同級会を開いた。

昭和三十一年三月、第八回生として普通科を卒業した私どもは、すでに六十を過ぎていた。会場は北関東の温泉地・栃木県下塩原温泉「ニュー塩原ホテル」午後四時過ぎ、北から南から三々五々参集。出席者の三割は山形を含む東北から、五割は東京はじめ関東各地から。そして残りは関西以降で、最も遠くから来られた人は九州福岡からであった。約半世紀ぶりで落ち合った面々、浦島太郎ならず初老の顔立ち。しかし、やがて語り合う中に高校時代にタイムスリップ。お互い青春を謳歌した十代のなつかしさが蘇り、夜を徹してし





やべりまくった。
翌七日は朝十時にホテルを立つ。那須高原にドライブ、昼食は洒落たレストラン風ペンションで舌つづみ。ここでも尽きぬ話に花が咲く。午後二時に再会を約して東北新幹線「那須塩原駅」でそれぞれ帰路につく。
あつという間の二日間でしたが、お互いの四十八年にはそれぞれにドラマが刻まれ、同時にお互いの将来には大きな夢もまた描かれているようにも思えた。初めての同級会はいい会であつた。

『十回目の同級会』

遠 藤 昭治郎

(昭和三十三年度卒)

秋たけなわの十月二日、三日、私たちの十回目の同級会が高瀬温泉高瀬観光ホテルに於いて、恩師渋谷藤吉先生を囲んで行われた。同級会の参加者も会を重ねる毎に増え、今回は二十八名の参加を頂き二年ぶりの開催となつた。
開会当初は、久しぶりの再会で、少し堅苦しい様な雰囲気であつたが、懐かしい渋谷節でのご挨拶や、校歌をテープに合わせての合唱で一気に学生時代に帰ることが出来た。当時の懐かしい思い出や、ほろ苦い思い出、目を細めながらの孫自慢、今も元気で頑張っている仲間の健康管理について等、話題は尽きない。
中でも一番の関心ごとは、母校の存続問題であり全員が母校の存続をつよく求めて行く事となつた。



カラ オケが始まると会場の上がりは一気にピークに達し、夜の更けるのも忘れる

ほどであつた。

次回の開催場所については、二年後に関東圏に於いて開催されることとなり、翌朝の朝食時に新幹事より抱負を含めたご挨拶を頂いた。

一泊二日の日程でしたが、久しぶりに若返った気持ちを胸に、次回も全員元気で再会出来ることを祈念しながらホテルを後にした。

最後になりましたが、急なお願いにも関わらず、快く校歌のテープを作成していただいた音楽の先生に感謝申し上げます。

同級生は生涯の宝

佐 藤 敏 美

(昭和三十五年度卒)

卒業後四十三年目の八月十六日、高瀬温泉のゑびすや(同級生の河内博氏経営)で同級生の約半数の三十一人が集い、語り合い、旧交をあたため、幸せな気分に浸つた。「誰が来るのか、何人来るのか、四十三年ぶりに会う人の名前はわかるか?」思い巡らし胸を弾ませながら会場へ。「あれ? 誰だっけ? 変わったねエ、オレ○○だ」配られた名簿を穴の開くほど見入りながら、高校時代にタイムスリップした気分ですりすまのように授業風景や校舎などが蘇ってくる。時間が経つにつれて、かつての面影と名前が重なっていくのが不思議である。

大宴会は鈴木春祥氏(元中越高校野球部監督・甲子園出場7回)の粋な司会で進められ、参加者一人一人から近況等のスピーチが始まる。高校卒業後四十数年



を経た人生の重みを感じられ感慨深く胸を締め付けられる。自分の人生と重ね、共感しながら聞いていた。お膳を囲んであちこちに輪ができ、積もる話に花が咲く。部活・スポーツ・授業中の早弁・先生から叱られたこと、褒められたこと、励まされたこと……夢中で熱く語る光景はとても印象的。大宴会の後も別会場で深夜まで名残を惜しんだ。
舟木一夫の「……クラス仲間、いつまでも……」
「たまたま三年間机を並べただけなのにこのような人間関係を保てるというすばらしい《宝》を感じた。」

おたより コーナー

忙しかった日々がすぎて



昭和43年度卒

能條 文子

(旧姓 平田)

朝、二階で洗濯物を干す時、遠くに白く小さな富士山が見えます。縁あってこの地に住む様になり三十年近くなります。氣候が温暖で、まだ自然が残っていて近くの温室ではカーネーションやスイートピーが栽培されています。結婚以来夫の海外への単身赴任が二十五年余り続き、年末に帰国年明けに出発という落ち着かない、まして知っている人のいない所での育児と留守番が私の仕事でした。そんな中で子供達が幼稚園に入り地域のママさんバレー

に入れていただき、友人もようやくできました。

こんな毎日でしたから、クラス会のお知らせが届いても散々考えて諦めるしかありませんでしたが、平成十二年に卒業以来初めて出席し、懐かしく、楽しく、友情が復活し、その後温泉旅行等しています。娘達も働く様になり、ようやく自由な時間が出来、月に一度は母の顔を見に行く！を自分義務づけましたが、これがなかなか実行できません。兄弟も、埼玉、東京とバラバラに住み、お正月、九月の父の命日、十二月初めの忘年会と集合します。特に命日は父を偲ぶと云うより、皆で大酒を飲み、母が作った芋煮を食べ、あげくの果てヨロヨロと立ちあがり、小国の盆踊りを始めるさまであります。

口には出しませんが、ふるさとはいつもなつかしく、心の中にあり、忘れることはなく小さな宝物といった感じです。

最近ママさんバレーも引

退し改めていままでを見つめ直したり反省したりしています。ああ忙しく騒がしい日々だったナ…と。

現在は、昔の同僚に便りを書いたり、母に葉書を書いたり気楽？に毎日を送っています。こんな日が来るなんて夢にも思っていないせんでした。なるべく母の顔を見に行く様努力し、友人との友好を大切に続けたいと願っています。

夕方、洗濯物を取り入れる時、夕焼けの中に富士山のシルエットがクッキリ浮かび明日の晴を約束してくれている様です。

母校への想い



昭和47年度卒

加藤 千江

(旧姓 塚原)

私も高校を卒業して三十九年が過ぎ、当時の担任の先生も本年、定年を迎える事

になりました。ご苦労様でした。

地元生まれ育ち、そして嫁ぎ、母校の事も少し気にしつつ暮らして来ました。

私の回りは、父親から始まり、叔父や叔母など、現在在校している私の息子まで十人の身内がお世話になった事になります。その間には創立五十周年も終え、今学校は変わろうとしています。時代が変わり林業科がなくなり、生徒の数もだいぶ減っていますが、色々な事で今の時代に合った教育内容にもなっています。

中高一貫のモデル校としてさまざまな試みがなされています。私達の時代では考えられなかった海外への修学旅行。子供達にとっても、とても勉強になる事だと思っています。ただ生徒数が減っているので部活の種類も少なく、又、部員もいなくて活動もままならないようなところもあるみたいですが、子供達はそれぞれにのしんでいる所も見られ

ます。

私達も毎年行きましたが、学校の下刈り作業は現在も行っており、我が家の子供はピクニック気分で行きまします。又、地域との交流やボランティア、冬は一人暮らしのお年寄りの所に雪かき作業のボランティアもあり、自分の家では何もしないのにはりきって出かけます。

ただ残念な事に、少子化その他の理由により、小国高校の存続が危ぶまれている状態です。私達父兄や卒業生だけではどうにもならない問題かもしれませんが、卒業生の一員として、とてもさみしい気持ちです。会えばなつかしい同級生や先生方、そんな楽しい話に花を咲かせるのも、なつかしい校舎があるからかもしれません。いつまでも私達の母校が存続するよう、同窓会の皆様も応援して下さい。最後に同窓会の役員・事務局の方々のご苦勞に感謝し、これからも、ますますの発展を望みます。

創立記念日 記念講演

「後輩に期待するもの」

置賜総合支庁森林整備課
課長補佐金子 三千栄
(昭和40年度卒)

昭和四十一年三月小国高校を卒業後、山形県職員として三十八年間県内各地を転勤、仕事を通して感じた地方特有の生活や文化等を体験したその印象と県内各地の特徴について述べられた。

金子氏は、スキーを趣味としていて、各国のスキー事情に興味を持ち、三十年ほど前にスイス、十年ほど前には、スポーツ少年団の子供達とヨーロッパ各国のスキー場を視察、二〇〇四年には、カナダへのスキー一人旅を行い、その土地々で感じた特有の生活・文化の違いを紹介、体験する旅の楽しさを述べられた。

これまでの体験を基に、学校生活や、地域社会において自分は何をすべきかについて話があり、まず自己の確立のために必要な四つのことを話してくださった。①自分の目標をしっかり持ち、十年先を見越した人生計画を立てる。②何事にも前向きに挑む。③自分の個性を磨く。④長く続けることが出来る趣味やスポーツを大事にする。

次に身近な所である①家庭や学校・地域において自分の立場、互いの立場を理解して議論を重ね、出来るところから実行する。②自分達の考えについて他と比較検討しながら進める。③関係者、周囲への発信が必要。④自分達のこだわり、ブランドの確立で他地域との競争に打ち勝つ意気込みが必要と述べられた。

本校卒業生の一人として、少子高齢化が進みつつある小国町を発展させる原動力となるよう後輩に期待するものである、と最後に締められた。

(文責 駒澤)

平成15年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位:円)

科目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増減	摘要
会費	1,000,000	0	1,000,000	813,000	△187,000	645名分
入会金	230,000	0	230,000	230,000	0	@5,000×46名
繰越金	379,189	0	379,189	379,189	0	前年度繰越金
雑収入	811	0	811	3	△808	預金利子
合計	1,610,000	0	1,610,000	1,422,192	△187,808	

支出の部

(単位:円)

科目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	残額	摘要
需要費	40,000	0	40,000	21,188	△18,812	用紙、卒業アルバム等
会議費	270,000	0	270,000	255,895	△14,105	各種役員会諸経費等
通信費	220,000	0	220,000	213,790	△6,210	はがき・切手振込手数料
印刷費	100,000	1,000	101,000	100,117	△883	お知らせ印刷等
使用料賃借料	10,000	0	10,000	0	10,000	事務局
事務室維持費	10,000	0	10,000	0	10,000	同窓会事務局維持諸経費
慶弔費	20,000	0	20,000	0	20,000	弔電等
教育助成費	150,000	0	150,000	85,125	△64,875	卒業記念品、講師謝礼等
支部助成費	100,000	0	100,000	84,500	△15,500	町内地区11支部
特別事業基金	350,000	0	350,000	250,000	△100,000	
事務費	50,000	0	50,000	15,157	△34,843	事務局
事業費	280,000	0	280,000	149,000	△131,000	会報発行等
予備費	10,000	△1,000	9,000	0	9,000	
合計	1,610,000		1,610,000	1,174,772	435,228	

平成16年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会費	1,000,000	1,000,000	0	年会費 @1,000×1,000名
入会金	305,000	230,000	75,000	卒業生入会金 @5,000×61名
繰越金	247,420	379,189	△131,769	前年度繰越金
雑収入	580	811	△231	預金利子等
合計	1,553,000	1,610,000	△57,000	

支出の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
需要費	40,000	40,000	0	用紙、卒業アルバム等
会議費	270,000	270,000	0	各種役員会諸経費等
通信費	220,000	220,000	0	はがき・切手振込手数料
印刷費	100,000	100,000	0	お知らせ印刷等
使用料賃借料	10,000	10,000	0	
事務室維持費	10,000	10,000	0	
慶弔費	10,000	20,000	△10,000	弔電等
教育助成費	150,000	150,000	0	卒業記念品、講師謝礼等
支部助成費	100,000	100,000	0	町内地区11支部
特別事業基金	300,000	350,000	△50,000	
事務費	30,000	50,000	△20,000	事務局費等
事業費	300,000	280,000	20,000	会報発行・事業等
予備費	13,000	10,000	3,000	
合計	1,553,000	1,610,000	△57,000	

高駒高 沢力 堅公 二	見舟川 文享 雄	昭和43年度卒業 (第二十回)	岡上村春 美枝 文枝 みどり 武樹 秀実	大能長 場條 文子 美枝 文枝 みどり 武樹 秀実	梅崎津 崎場 武吉 秀樹	相川馬 崎美 朝子	加藤澤 雪京 朝子	奥田道 雪京 朝子	佐藤野 道雪 京朝	伊藤藤 野道 雪京	伊藤藤 野道 雪京	斎藤野 道雪 京朝	田村吹 野道 雪京	平野千 代志 仁二	米村千 代志 仁二	井浦千 代志 仁二	後藤善 重子	塚原宣 義子	昭和44年度卒業 (第二十一回)	笠藤敬 宮子	坂上幸 賀子	城藤政 賀子	加藤泰 賀子	益田幸 賀子	小田幸 賀子	伊藤幸 賀子	小田幸 賀子	杉根山 正宏	昭和45年度卒業 (第二十二回)	五味幸 子		
大佐藤 城松 義夫	佐藤藤 村義 昭	昭和46年度卒業 (第二十三回)	市川勝 光男 二	齋藤勝 光男 二	松本勝 光男 二	伊藤勝 光男 二	鈴木勝 光男 二	鈴木勝 光男 二	鈴宮勝 光男 二	七田英 子	昭和47年度卒業 (第二十四回)	木戸武 義弘 治	佐藤武 義弘 治	斎藤武 義弘 治	栗山武 義弘 治	後藤武 義弘 治	伊藤武 義弘 治	伊藤武 義弘 治	松浦武 義弘 治	岩崎武 義弘 治	佐藤武 義弘 治	仙崎武 義弘 治	秋山武 義弘 治	高橋武 義弘 治	丹波武 義弘 治	菊地武 義弘 治	佐藤武 義弘 治	奈良武 義弘 治	渡部武 義弘 治	昭和48年度卒業		
盛田信 明	會田信 明	舟藤恭 夫	武島孝 子	岡村英 子	昭和49年度卒業 (第二十六回)	塚原睦 子	渡邊睦 子	小佐睦 子	伊藤睦 子	斎藤睦 子	金村睦 子	昭和50年度卒業 (第二十七回)	飯沼洋 一	高橋洋 一	佐藤洋 一	飯沼洋 一	高橋洋 一	佐藤洋 一	飯沼洋 一	高橋洋 一	佐藤洋 一	飯沼洋 一	高橋洋 一	佐藤洋 一	飯沼洋 一	高橋洋 一	佐藤洋 一	飯沼洋 一	高橋洋 一	佐藤洋 一	飯沼洋 一	昭和51年度卒業 (第二十八回)
昭和53年度卒業 (第三十回)	栗田明 子	塚原明 子	塩川明 子	伊藤明 子	昭和54年度卒業 (第三十一回)	斎藤明 子	渡邊明 子	小佐明 子	伊藤明 子	斎藤明 子	金村明 子	昭和55年度卒業 (第三十二回)	大伍明 子	舟山明 子	相馬明 子	佐藤明 子	栗田明 子	伊藤明 子	昭和56年度卒業 (第三十三回)	須貝明 子	斎藤明 子	梅津明 子	昭和57年度卒業 (第三十四回)	笠原明 子	磯部明 子	佐藤明 子	須貝明 子	伊藤明 子	斎藤明 子	高橋明 子	昭和58年度卒業 (第三十五回)	
高橋幸 子	佐藤雅 子	伊藤久 美子	桜井洋 子	昭和59年度卒業 (第三十六回)	佐藤靖 彦	須貝幸 子	須貝幸 子	須貝幸 子	須貝幸 子	須貝幸 子	須貝幸 子	昭和60年度卒業 (第三十七回)	益田昭 美子	舟田昭 美子	後藤昭 美子	横山昭 美子	高橋昭 美子	斎藤昭 美子	大和田昭 美子	昭和61年度卒業 (第三十八回)	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	佐藤一 幸	昭和62年度卒業 (第三十九回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成4年度卒業 (第四十四回)	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	須貝浩 充	平成5年度卒業 (第四十五回)
平成4年度卒業 (第四十四回)	小貝浩 充	須貝浩 充																														

事務局だより

○平成十六年度小国高校同窓会総会が五月二十一日(金)午後六時より「みよしや食堂」において開催され、平成十五年度会計及び決算、十六年度予算、事業計画等が承認されました。総会の席上、前河内校長先生が三月をもって退職されましたので、功績をたたえ感謝状が贈呈されました。

第二部の懇親会は佐藤新会長のおいさつで始まり、記念講演を終えた金子氏にも参加していただき、楽しいひと時を過ごしました。

○十七年一月十二日行われた役員会で、生徒への皆勤賞、精勤賞の補助、海外短期留学生への資金補助等のバックアップをしていく事などが決まりました。○毎年多くの皆さんに年会費を納入していただき有難うございます。今年度も多くの皆さんからの納入をお願いいたします。

○仁科会長が退任され、佐藤祐一氏(三十一年度卒)が新会長に、舟山副会長が退任され、渡部和夫氏(五十年度卒)が副会長に就任されました。

○訂正とお詫び

藤田栄三さんの同級会の原稿は、昨年いただきましたが、紙面の都合により今年度になったことをお詫びいたします。

第十五号でお便りいただいた伊藤修三さんの卒業年度は昭和四十三年度、下山睦美さんは、五十二年の間違いでした。

平成17年度総会の案内

平成17年度総会を下記日程に行いますので、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

- 期 日 平成17年5月20日(金)
- 時 間 午後6:00より
- 会 場 志久よし亭
0238-62-3322
- 会 費 3,000円
- 申し込み 小国高校事務局
TEL (0238)62-2054
FAX (0238)62-2055
E-mail dousoukai@ygt-oguni-h.ed.jp

魅力ある小国高校をめざして

生徒会長 今 将太



僕が思う魅力ある学校は、生徒が楽しく、充実した生活を送る事が出来る学校です。また、勉強や部活などを通して、多くの人が活躍できれば充実した学校生活にもつながると思っています。

特に体育祭や学校祭、クラスマッチなどの学校行事では、楽しみながら生徒一人ひとりが活躍できると思います。僕自身も、いろいろな行事を通して、クラスの団結が強くなり、充実した学校生活を送れていると感じています。生徒の中には、僕と同じように思っている人もたくさんいると思います。今年もたくさんいます。



行事でみんなが楽しめるようにそして大成功で終わるよう、執行部を中心に企画運営など頑張りたいと思っています。

では、地区大会を勝ち進み、県大会に出場した選手もいました。このような活躍は、小国町の中だけでなく、町外にも誇れるもので、これからの練習によってもっと多くの人が活躍できると思っています。そのためには、日々の練習を大切にしていきたいです。

また、これまで小国高校を卒業して行った先輩方がつくり上げてくださった伝統を壊さず、また、新しいものを取り入れて、より良い学校に行きたいです。魅力ある小国高校を目指し、執行部を中心に頑張りますので、応援やご協力をよろしくお願いします。

編集委員の集まりでは、現在の高校の様子も知ることができ、地元にながらなかなか関われなかった母校が、急に身近で愛しいものになりました。

微力ではありますが、会報を楽しみに待っていてくださる同窓生の皆様方に喜んでいただけるよう頑張りたいと思っています。

(編集委員) 栗田金男・神保たえ子
駒澤堅一・原田千鶴子

16年度 進路状況 (H17.214現在)

小国高校進路指導課

内 訳	男子	女子	合計	備 考
進 4年制大学	7	1	8	
短期大学	2	8	10	未定 女子1名
看護・医療系専門学校			0	
公共職業訓練校			0	
その他専門学校	11	8	19	未定 女子1名
小 計	20	16	36	未定 女子2名
就 地元就職(小国町・西置賜)	9	6	15	未定 男子1名
地元外県内就職	1		1	
県外就職	3	3	6	
就職地未定			0	
公務員			0	
自営・家事従事			0	
(就職進学)			0	
小 計	13	9	22	未定 男子1名
合 計	33	26	59	未定 男子1名 女子2名

進学合格先

1. 4年制大学 8名 仙台大学・大正大学・千葉工業大学・東北公益文化大学(2)・新潟工科大学・白鷺大学・明海大学
いわき短大・羽陽学園短大(4)・大妻女子短大・山形短大(2)・米沢女子短大(2)
2. 短期大学 10名 wish国際ホテルブライダル専門学校・国際自動車工科専門学校・国際トータルファッション専門学校(2)・国際福祉医療カレッジ(2)・淑徳幼児教育専門学校・東京ゲームデザイナー学院(2)・東放学園映画専門学校・デジタルエンタテインメントアカデミー・新潟工科専門学校・にいがた製菓調理師専門学校えぶろん・新潟デザイン専門学校・日本スクールオブビジネス・北陸福祉保育専門学校・宮城文化服装専門学校・ワタナベエンターテインメントカレッジ
3. 専門学校 18名

就職内定先

1. 地 元 (西置賜) 小国町 12名 荒川興業㈱(2)・柳金十商店・(南白)森よこね物産品直売所(2)・東セラマシナリ㈱・日本重化学工業㈱小国事業所(3)・ひさご電材㈱・山和建設㈱(2)
長井市 3名 光洋精機㈱山形工場・長井石油㈱・柳文化園
2. 地元外県内 米沢市 1名 南セキュリティ米沢
3. 県 外 新潟県 3名 柳丸伊・柳ひらせいホームセンター・新潟東芝セラミックス㈱
東京都 2名 柳まんだらけ(中古書籍販売)・畠山電設㈱
神奈川県 1名 箱根カントリー倶楽部㈱

また、放課後の部活動では、毎日一生懸命に練習している人が多いです。他の高校に比べると部の数は少ないですが、大会での活躍は負けていません。昨年の大会



編集後記

昨年末に、駒沢さんから声をかけていただき、小国高校同窓会報の編集委員の仲間に入れていただきました。

「恩師回想」の原稿を依頼するため、担任であった渡辺照子先生に電話をする機会がありました。卒業二年目の同級会以後お会いすることが無かったのですが、不安を胸に電話をかけましたが、受話器の向こうからは、当時と変わらぬい、お元気そうな先生の声が聞こえ、近況報告を終え、突然のお願いであった原稿の依頼も快く引き受けていただきました。

編集委員の集まりでは、現在の高校の様子も知ることができ、地元にながらなかなか関われなかった母校が、急に身近で愛しいものになりました。

微力ではありますが、会報を楽しみに待っていてくださる同窓生の皆様方に喜んでいただけるよう頑張りたいと思っています。

(編集委員) 栗田金男・神保たえ子
駒澤堅一・原田千鶴子